＝市史編さん便り＝【51 号】令和 5 年 11 月 28 日(火)発行
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊土佐清水市教育委員会・市史編さん室

「足摺岬小学校校内研修」に参加

・・・「ふるさと学習(中浜万次郎)の進め方」

11 月 22 日(水)15 時より足摺岬小学校校内研修会に、こども未来課・教育の魅力化推進コーディネーター岡村相良先生と参加してきた。ここでは郷土の先人・中浜万次郎の学習について、「小中高と発達段階的に応じてどのように学習を進めていくか」「小学校における学習の進め方」について研修を進めた。

「あれやこれやと教材を渉猟するよりも、教育センターで作成した絵本や紙芝居を基に学習した方がよい。」「無味乾燥とした授業ではなく、子どもたちが興味関心を持てるような教材研究を行うことが大切」などの意見が交わされた。まず、教える側の教員自身がしっかりと万次郎を学んでおくことが大切であり、足摺岬小学校の取り組みはその先陣を切る取り組みである。

万次郎が鳥島で救助(1841 年 5 月 9 日)されてから琉球小渡浜に上陸(1851 年 1 月 3 日)までの約 9 年余り。その半分以上(5 年余り)は、洋上の捕鯨生活であった。万次郎の海外生活を時系列にたどりながら、歴史的根拠をおさえながらその実態を追及していくことが必要である。そこから真実の万次郎像が見えてくると思う。子どもたちに真実の万次郎を見てもらいたいと思う。

「ジョンハウランド号」で 2 年余りの捕鯨生活

1841 年 5 月 9 日、万次郎ら 5 人はホイットフィールド船長が指揮を執るジョンハウランド号に救助された。その後、ハワイに寄港し、筆之丞(伝蔵)・重助・五右衛門・寅右衛門らと別れ、すぐに米国に行ったと思われがちである。史実は、そうではなく、1841 年 5 月 9 日に救助されて、ハワイへ、そこから他の 4 人と別れて、ギルバート、グアム、再び鳥島周辺、タヒチやエミオ島近海、ケープホーンなどを航行して捕鯨し、1843 年 5 月 7 日にニューベッドフォードへ帰港している。救助されてから実に 2 年余り捕鯨生活をしていたことになる。

「フランクリン号」で 3 年 4 か月余りの捕鯨生活

万次郎は、米国に上陸し、オックスフォード小学校で英語をＡＢＣから学び、

バートレット・アカデミーで航海術・測量述を学んだ。また、樽屋での奉公を経て、デービスの世話によりフランクリン号に乗船し、再び捕鯨に出港する。
1846 年 5 月 16 日にニューベッドフォードを出港し、1849 年 9 月 23 日に帰港するまで実に 3 年 4 か月余りの捕鯨生活であった。万次郎 19 歳から 22 歳の頃のことである。

　あしずり港北西に建つ「萬次郎少年像」。これは、天保 12 年(1841)1 月 14 日、足摺沖から流された万次郎らが乗るカツオ船は黒潮本流に乗り、大蛇行で伊豆諸島最南端の鳥島へ漂着した。『漂巽紀畧』には、絶海の孤島「鳥島」に 5 人が上陸したときの様子が克明に記されている。右写真の左に写る重助は、上陸の際に足を骨折した。これがもとでハワイにて早世する。右写真の右に重助を支える兄・筆之丞、波を背に叫ぶ。

↑左：寅右衛門、右：五右衛門。波を背に船から鳥島に飛び降りる。